

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成16年8月19日(2004.8.19)

【公表番号】特表2001-517922(P2001-517922A)

【公表日】平成13年10月9日(2001.10.9)

【出願番号】特願平9-505925

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 0 1 K 67/027

A 6 1 K 38/00

A 6 1 K 39/395

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 25/28

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 5/10

C 1 2 P 21/02

C 1 2 P 21/08

C 1 2 Q 1/68

// A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 35/76

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 0 1 K 67/027

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 25/28

C 0 7 K 14/47

C 1 2 P 21/02 C

C 1 2 P 21/08

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 5/00 B

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 35/76

【手続補正書】

【提出日】平成15年7月7日(2003.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成 15. 7. -7 年 月 日

特許庁長官 太 田 信一郎 殿



1. 事件の表示 平成 9 年特許願第 5 0 5 9 2 5 号

2. 補正をする者

事件との関係 出 願 人

名 称 ダーウィン モレキュラー コーポレイション

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内 3 丁目 3 番 1 号  
電話 (代) 3211-8741

氏 名 (5995) 弁理士 中 村 稔



4. 補正命令の日付 自 発

5. (本補正により請求の範囲に記載された請求項の数は合計「15」  
となりました。)

6. 補正対象書類名 明細書

7. 補正対象項目名 請求の範囲

8. 補正の内容 別紙記載の通り



## 請求の範囲

1. 単離された核酸分子であって、(1) 図2に示されるアミノ酸配列を有するポリペプチドをコードする核酸分子及び(2) 図1A及び1Bで示される核酸配列を有する核酸分子からなる群から選択されることを特徴とする核酸分子。
2. アミノ酸残基141位にアミノ酸置換を有する点において、図2に示される配列と異なるアミノ酸配列を有する変異AD4遺伝子産物をコードする請求項1に記載の核酸分子。
3. 請求項1又は2のいずれかに記載の核酸分子に、作動可能に連結されたプロモーターを含むことを特徴とする発現ベクター。
4. 請求項3に記載のベクターを有することを特徴とする宿主細胞。
5. 図2に示されるアミノ酸配列を有するAD4遺伝子産物を有することを特徴とする、単離されたタンパク質。
6. 残基141位にアミノ酸置換を有する点において、図2に示される配列と異なるアミノ酸配列を有することを特徴とする、単離された変異AD4タンパク質。
7. 請求項5又は6に記載のタンパク質と特異的に結合する抗体であって、ポリクローナル抗体、モノクローナル抗体、Fabフラグメント、Fvフラグメント、及び単鎖抗体からなる群より選択されることを特徴とする抗体。
8. 請求項7に記載の抗体を産生することのできるハイブリドーマ。
9. 患者におけるアルツハイマー病の発症の見込みを減少させるか又は発症を遅延させるための治療剤であって、(1) 請求項1に記載の核酸分子と作動可能に連結されたプロモーターを有する発現ベクター、(2) 請求項5に記載のタンパク質及び(3) 請求項5又は6に記載のタンパク質と特異的に結合する抗体からなる群から選択されることを特徴とする治療剤。
10. (1) 請求項1に記載の核酸分子と作動可能に連結されたプロモーターを含む発現ベクター、(2) 前記(1)の発現ベクターを有する宿主細胞、(3) 請求項5に記載のタンパク質及び(3) 請求項5に記載のタンパク質及び(4) 請求項7に記載の抗体からなる群から選択される治療剤を、薬学的に受容可能なキャリア又は希釈剤とともに含有することを特徴とする薬学的組成物。
11. アルツハイマー病に罹る増大した見込みを検出するための診断用核酸分子

であって、(1) 高いストリンジェンシーの条件下で請求項 2 に記載の核酸分子とハイブリダイズし得えかつ高いストリンジェンシーの条件下で請求項 1 に記載の核酸分子とハイブリダイズしない核酸プローブ及び(2) 請求項 1 又は 2 に記載の核酸分子の選択された配列を増幅し得る少なくとも一種のヌクレオチドプライマーからなる群から選択されるヌクレオチドを有することを特徴とする診断用核酸分子。

12. アルツハイマー病に罹る増大した見込みを検出するための診断剤であって、請求項 6 に記載の変異 A D 4 タンパク質と特異的に結合するが、請求項 5 に記載の野生型 A D 4 タンパク質とは特異的に結合しない抗体を有することを特徴とする診断剤。

13. 変異を含む変異 A D 4 遺伝子産物の一部を、薬学的に受容可能なキャリア又は希釈剤と組み合わせて含有することを特徴とするペプチドワクチン。

14. 生殖細胞及び体細胞が請求項 1 又は 2 に記載の核酸分子を含むトランスジェニック非ヒト動物であって、前記核酸分子が、該核酸分子の発現に有効なプロモーターに作動可能に連結されており、かつ該非ヒト動物内又は該非ヒト動物の祖先に胚の段階で導入されていることを特徴とするトランスジェニック非ヒト動物。

15. 図13~19に示す A D 4 遺伝子配列を含むことを特徴とする単離された DNA 分子。